

平成28年度 第2回 川内川学識者懇談会

せん だい 川内川総合水系 環境整備事業

- ① 事業採択後3年経過して未着工の事業
- ② 事業採択後5年経過して継続中の事業
- ③ 着工準備費又は実施計画調査費の予算化後3年経過した事業
- ④ 再評価実施後3年経過した事業
- ⑤ 社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業



1. 川内川流域の概要 [川内川の概要と特徴]

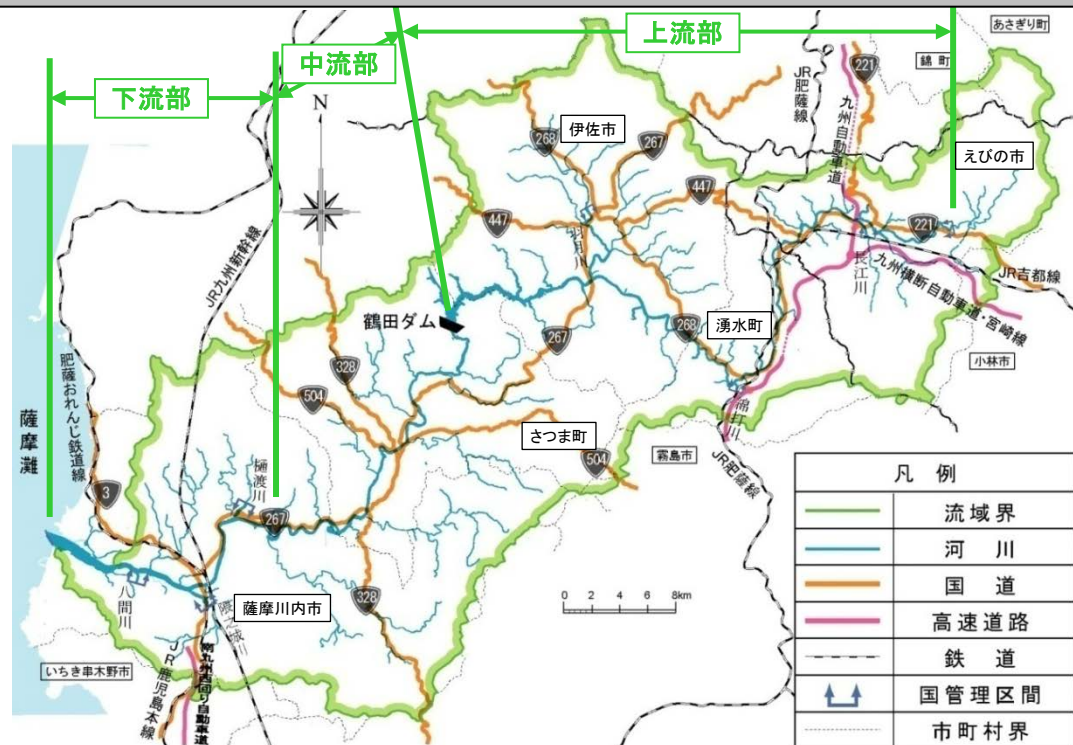
【川内川の概要】

- ・ 流域面積 : 1,600km²
- ・ 幹川流路延長 : 137km
- ・ 流域内市町村 : 6市4町
- ・ 流域内人口 : 約19万人(平成22年国勢調査)

■各区間の特徴

<上流部(鶴田ダム～上流端)>

- ・ 上流部のえびの市は、クルソン峡、京町温泉等の豊かな観光資源や歴史的資源に恵まれ、湧水町、伊佐市では、稲作等の農業や温泉等による観光産業が盛んである。
- ・ 川内川は、曾木の滝等の景勝地における観光、カヌー大会・練習等に利用されている。
- ・ えびの市は、九州自動車道及び宮崎自動車道の基幹交通施設により、交通の要衝となっている。
- ・ 国定指定天然記念物のチスジノリ発生地があり、鹿児島県指定天然記念物のカワゴケソウが生育している。



<中流部(樋脇川合流点付近～鶴田ダム下流)>

- ・ 中流部のさつま町では、稲作等の農業や温泉等による観光産業が盛んである。
- ・ 川内川は、ボートレース大会、アユ漁、ホタル舟運航等に利用されている。
- ・ 山間部を蛇行しながら流れており、瀬にはアユ等、淵にはニゴイ、水際にはカワニナを餌とするゲンジボタルが生息している。河畔林はカワセミ等の止まり木となっており、豊かな自然に恵まれている。

<下流部(河口～樋脇川合流点付近)>

- ・ 下流部の薩摩川内市は、人口・資産が集中し、川内川は、日常的な散策や花火大会、ボートレース競技大会等のイベントの場などとして多くの市民に利用されている。
- ・ 感潮区間であるため、汽水・海水魚が生息し、河口付近に干潟や塩生植物・砂丘植物が分布する。

1. 川内川流域の概要 [川内川の利用状況]

<川内川の利用状況>

◆川内川の河川空間は、曾木の滝、湯之尾滝等の景勝地における観光、河川敷や堤防における散策やスポーツ、花火大会、河川内におけるボートレース・カヌー大会・練習、ホタル鑑賞、アユ漁など、多岐に利用されている。

◆川内川は、小中学生や住民団体による生物調査や水質調査等の環境学習の場として利用されており、「川内川を日本一の清流に」をスローガンに河川愛護意識や環境意識を高めることを目的とした「川内川子ども環境ネットワーク」が設立されている。



川内川花火大会
(薩摩川内市/下流域)



ホタル舟運航
(さつま町/中流域)



曾木の滝
(伊佐市/上流域)



ドラゴンボートレース大会
(伊佐市/上流域)



カヌー競技大会
(湧水町/上流域)



環境学習活動
(えびの市/上流域)

1. 川内川流域の概要 [川内川水系の目標]

＜河川環境の整備と保全に関する目標＞ (川内川水系河川整備計画抜粋)

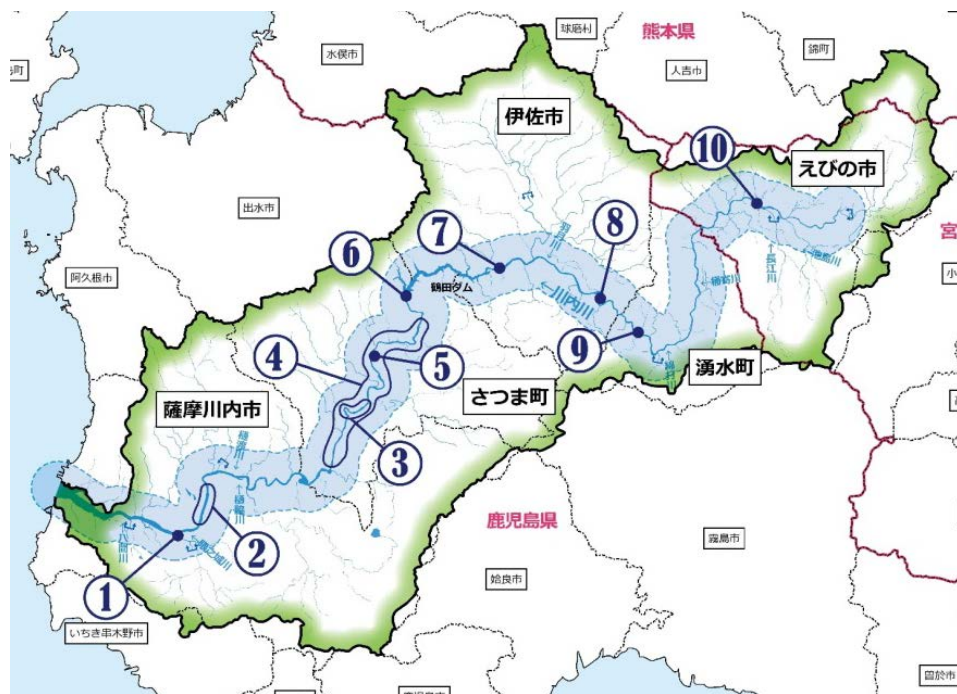
- ◆川内川と流域の人々との歴史的・文化的なつながりを踏まえ、川内川の流れが織りなす良好な河川景観や、重要種であるチスジノリ、カワゴケソウをはじめ、多様な動植物が生息・生育・繁殖する自然環境の保全及び創出を目指すこととしている。
- ◆環境学習や憩いの場として地域に親しまれ、活力ある川を次世代に引き継ぐものとしている。
- ◆川内川の良好な自然環境や、望ましい利用空間の保全を図ることとしている。
- ◆陸域と水域、上下流や本支川等のような空間的なつながりや、流域の歴史・文化と現在社会の時間的連続性、川と地域と人とのつながりなど、動植物の生息・生育・繁殖環境、魅力ある水辺空間の確保の観点から、損なわれた様々なつながりの復活を目指すこととしている。
- ◆水質については、環境基準を継続して満足させることに加え、川内川が「日本一の清流」となるようさらなる水質の向上に努めることとしている。

1. 川内川流域の概要 [川内川総合水系環境整備事業の概要]

<事業評価（再評価）対象事業の概要>

◆「川内川水系かわまちづくり計画」を踏まえ、川内川水系全体での水辺整備について、水系一体として事業評価に諮るものである。

区分	箇所名	事業期間
水辺整備	① 向田地区（鹿児島県薩摩川内市）	平成22年度 ～平成38年度
	② 薩摩川内市街部（鹿児島県薩摩川内市）	
	③ 宮之城屋地・虎居地区 （鹿児島県さつま町）	
	④ さつま町（ホタル）地区 （鹿児島県さつま町）	
	⑤ さつま町（湯田）地区 （鹿児島県さつま町）	
	⑥ 鶴田ダム湖周辺 （鹿児島県さつま町・伊佐市）	
	⑦ 曾木の滝周辺（鹿児島県伊佐市）	
	⑧ 湯之尾地区（鹿児島県伊佐市）	
	⑨ 轟地区（鹿児島県湧水町）	
	⑩ 湯田地区（宮崎県えびの市）	
川内川総合水系環境整備事業		平成22年度 ～平成38年度



1. 川内川流域の概要 [川内川水系の地域の取り組み状況]

<川内川流域の地域の取り組み状況①>

さつませんだい

(1) 薩摩川内市（鹿児島県）

- ◆薩摩川内市では、第2次薩摩川内市総合計画において、「快適で魅力的な住み続けたいまちづくり」を展開するため、市街地の中央を流れる川内川を市のシンボルと捉え、河川空間を有効に活用して市民が親しめる水辺空間を創出すると政策に掲げている。
- ◆薩摩川内市では、川内川花火大会をはじめ、市街部高水敷ではリバーフロントマルシェ等のイベントが開催され、賑わいをみせている。
- ◆早慶レガッタも行われる市民レガッタや高校・大学漕艇競技の練習場など、水面の利用も盛んである。
- ◆川内市街部では、薩摩川内市の土地区画整理事業と一体となって引堤事業を実施しており、これにより創出される新たな河川空間の利活用について、地域において整備構想の検討が行われている。



川内川花火大会



薩摩川内リバーフロントマルシェ



川内レガッタ

1. 川内川流域の概要 [川内川水系の地域の取り組み状況]

<川内川流域の地域の取り組み状況②>

(2) さつま町（鹿児島県）

- ◆ さつま町では、第2次さつま町総合振興計画において、地域資源を活かした観光のデザインの推進とともに、川内川の活用による交流人口の増加を図る計画を掲げている。
- ◆ さつま町では、町内一帯で多くのホタルが見られ、川の中からホタルを観賞する「奥薩摩のホタル舟」と「二渡ホタル舟」が5月に運航されており、ホタルを使った観光に力を入れている。
- ◆ 宮之城屋地・虎居地区では、復興記念ウォーキング大会や新春泳ぎ初め、魚のつかみ取り大会、せんで川まつりなど、川内川を会場としたイベントや伝統行事が数多く行われている。
- ◆ 湯田地区では、川内川沿いに宮之城温泉が軒を連ね、川内川の河川敷から湧き出る源泉を利用した足湯イベントが開催されている。
- ◆ 鶴田ダムでは、ダム湖畔の12キロを歩く「鶴田ダムウォーキング大会」や、地元NPOによる湖面遊覧など地域活性イベントが行われている。



ホタル舟



新春泳ぎ初め



足湯イベント



ダム湖遊覧

1. 川内川流域の概要 [川内川水系の地域の取り組み状況]

<川内川流域の地域の取り組み状況③>

(3) ^{い さ}伊佐市（鹿児島県）

- ◆伊佐市では、伊佐市まち・ひと・しごと創生総合戦略において曾木の滝周辺の自然景観等を活かした自然型体験観光エリアの整備等を推進している。
- ◆湯之尾地区では、水に親しんでもらおうと企画された「いさドラゴンカップ」が、ゴールデンウィークに開催されているほか、カヌー、カヤックなどの競技大会や練習、高水敷を活用したパークゴルフなどが盛んに行われている。
- ◆伊佐市には、川内川最大の景勝地である“東洋のナイアガラ”とも呼ばれる曾木の滝があり、多くの観光客が訪れている。
- ◆湯之尾地区は、2020年かごしま国体のカヌー（スプリント）及び、2019年インターハイの会場に決定しており、頻繁に利用される様になっている。
- ◆曾木の滝公園のさらなる魅力向上による観光地の振興を目的として、行政及び地元団体、学識者等で構成された「曾木地区周辺整備検討会」を開催し、協議を進めている。



曾木の滝



曾木の滝公園



いさドラゴンカップ

1. 川内川流域の概要〔川内川水系の地域の取り組み状況〕

<川内川流域の地域の取り組み状況④>

(4) ゆうすい湧水町（鹿児島県）

- ◆湧水町では、第二次湧水町総合計画において、轟橋周辺を「ふるさと交流エリア」として、交流人口の増大、ウォータースポーツの普及・推進を強化することとしている。
- ◆湧水町では、年中途絶えることなく冷水が湧き出ている竹中池や丸池があり、観光地となっている。
- ◆水辺の楽校（吉松地区）があり、カヌー発着場・多目的広場が整備されており、カヌー利用が行われている。また、物産館が隣接しており、週末には家族連れで賑わっている。
- ◆轟地区は、2020年かごしま国体のカヌースラローム・ワイルドウォーター会場に決まってから、各種大会や練習が頻繁に行われるようになっている。
- ◆町内上流から下流に至る川内川全川を河川公園として活用する「川内川河川公園等整備活用計画」を検討中であり、「かごしま国体」のカヌー競技会場となっている轟の瀬を中心に、整備・活用に向けた検討を進めている。



夏祭り



カヌー競技大会



二渡イルミネーション「星のさんぽ道」 8

1. 川内川流域の概要 [川内川水系の地域の取り組み状況]

<川内川流域の地域の取り組み状況⑤>

(5) えびの市（宮崎県）

- ◆えびの市では、えびの市都市計画マスタープランにおいて、本市の自然環境や観光資源の特性を積極的かつ有効的に活用することにより、他の都市と異なる個性豊かな魅力あるまちづくりを推進している。
- ◆えびの市では、ゲートボール・グラウンドゴルフ等、高水敷の利用、散策、釣り等による利用が多く見られる。
- ◆グリーンパークえびのに近接する湯田地区は、水辺ではカヌー講習などのサマースクールや環境学習などで利用されており、高水敷はえびの市消防出初式やイベント時の駐車場として利用されている。
- ◆湯田地区上流に位置する永山公園は、週末には家族連れや子どもたちで賑わっている。



河川環境学習



消防出初め式



秋季えびの観光祭

1. 川内川流域の概要 [川内川水系の地域の取り組み状況]

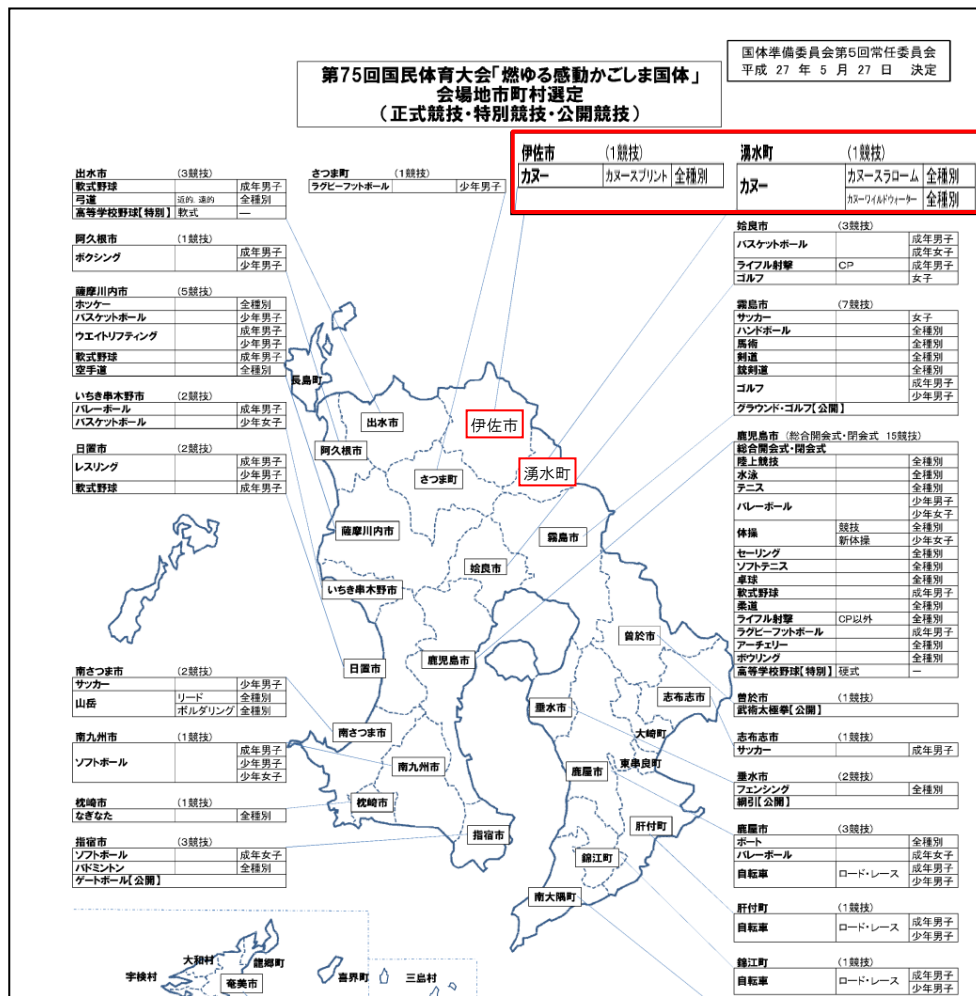
<川内川流域の地域の取り組み状況⑥>

(6) 第75回国民体育大会「燃ゆる感動かごしま国体」

◆鹿児島県では、平成32年（2020年）に第75回国民体育大会が開催されることが決定している。

◆川内川を競技会場として、伊佐市湯之尾地区がカヌースプリント、湧水町轟地区がカヌースラローム及びカヌーワイルドウォーターに決定！！

◆国体開催を契機に、将来的にも継続的な県内外の交流が見込まれる。



2. 事業の必要性等 [川内川総合水系環境整備事業の概要]

＜川内川水系かわまちづくり計画基本方針＞

○基本的な考え方

◆川内川は、上流えびの市のクルソン峡、湧水町の阿波溪谷、伊佐市の東洋のナイアガラと呼ばれる曾木の滝、さつま町の轟の瀬、薩摩川内市の長崎堤防がある広大な河口など、素晴らしい河川景観を有している。また、散策・釣り、カヌー・レガッタ・ドラゴンボート等、水辺空間を活用した様々なイベントも開催されており、多くの方々に利用され憩いの場となっている。

◆しかしながら、水辺への安全なアクセスが困難など、安全に河川を利用できる状況となっていない箇所がみうけられる。

◆一方で、個々の市町では、河川等の地域資源を活用したまちづくり・地域の活性化を目標に掲げ、さまざまな取り組みが始められている。

◆個々の川づくり・まちづくりでは、効果が限定的

◆地域と地域が連携することで、単独地域では成し得ない地域活性化を創出

川内川水系かわまちづくり計画（5市町）

個々にかわづくり、まちづくりを行っていくのではなく、市町が連携することで地域が元気になる、地域が活性化していく、

「川内川水系かわまちづくり」を進めていく。



(平成28年8月21日南日本新聞23面)

写真提供：観光
情報の提供：環境省
取材：南日本新聞
編集：南日本新聞
発行：南日本新聞

2. 事業の必要性等 [川内川総合水系環境整備事業の概要]

<整備箇所概要>

(1) 事業の必要性等

◆川内川流域は、各箇所に地域資源が存在し、観光地等としてにぎわいをみせている。

地域住民は川内川の安全な水辺の利活用を望んでいるものの、高水敷に雑草が繁茂している、荒れ地になっているなど、安全にアクセスしにくい状況や利活用が困難な状況にある。

◆管理用通路、階段護岸、階段工、坂路等の整備、高水敷整正等を行うことで、高水敷の利用および水辺・水面利用時の安全性と快適性が確保され、河川の利活用による地域活性化や河川景観の向上が可能となる。



安全な水辺へのアクセス、安全な利用ができない状況



平成18年7月の豪雨災害において河川の氾濫による被害が特に甚大であった川内川水系について、「川内川水系河川整備計画」に基づく、川内川水系の着実かつ速やかな整備を推進するため、河川事業推進に伴う治水効果と併せて、背後地の市街地発展等のストック効果についても期待される川内市街部改修事業や、平成29年度に完成が予定されている鶴田ダム再開発事業などの必要な予算を確保していただきたい。

また、ハザードマップの作成支援や危機管理体制の充実、流域住民の水防意識の向上のための取組などのソフト対策と、堤防やダムの整備などのハード対策は、防災・減災対策の両輪として着実に進めることが重要であるため、これらの対策を一体的・効果的に強力に推進していただきたい。

については、下記の事項について格別のご高配を賜るよう要望します。

記

- 1 川内市街部改修並びに鶴田ダム上流区間における河道幅原及ひ築堤等を推進すること。
- 2 鶴田ダム再開発事業の平成29年度完了に向けた着実な事業推進を図ること。
- 3 「水防意識社会 再構築ビジョン」に基づくハード対策及びソフト対策を強力に推進すること。
- 4 川内川沿川自治体が一体となって策定を予定している「川内川水系かわまちづくり」計画に基づいた環境整備事業を推進すること。

要望書

「川内川水系かわまちづくりの推進」

2. 事業の必要性等 [川内川総合水系環境整備事業の概要]

(2) 事業の概要・目的

◆川内川沿川に位置する5市町の連携による、川内川水系10地区のかわづくり、まちづくりにより地域交流・活性化の促進とともに、河川空間利用者の安全性の向上、河川管理の円滑化を図る。

◆平成18年出水を契機として整備した治水施設等や既に整備済の水辺も含めて、利活用の拠点をつなぐ新たな河川空間・まち空間の形成を図る。

◆かごしま国体を契機とし、イベント開催の場としての河川空間の活用、またそれに乗じて、関係機関連携による周辺地域への観光客誘致を目的としたまちづくりを行うことにより、地域活性化の相乗効果を図る。

◆DMO観光推進事業を活用し、川内川を活用した観光・特産品等の振興を図る。



No	整備地区	No	整備地区
①	向田地区(薩摩川内市)	⑥	鶴田ダム湖周辺(さつま町・伊佐市)
②	薩摩川内市街部(薩摩川内市)	⑦	曽木の滝周辺(伊佐市)
③	宮之城屋地・虎居地区(さつま町)	⑧	湯之尾地区(伊佐市)
④	さつま町(ホタル)地区(さつま町)	⑨	轟地区(湧水町)
⑤	さつま町(湯田)地区(さつま町)	⑩	湯田地区(えびの市)

2. 事業の必要性等 [川内川総合水系環境整備事業の概要]

①向田地区

- ◆ 薩摩川内市の中心市街地に位置し、10万人が訪れる川内川花火大会、川内レガッタ、消防出初式等が行われ、日常では散策、漕艇練習が行われるなど、河川利用が多い地区である。
- ◆ 河川利用面での安全性の向上に繋がる水辺整備を周辺の公園整備と一体となって行うことで、人々が集い賑わう“かわ・まち空間”の形成が図られることが期待される。

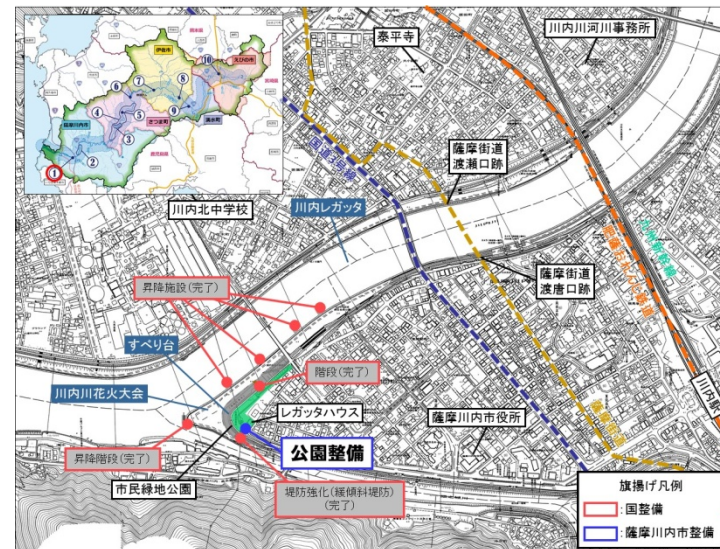
【概要】

位置	川内川10k500～11k800付近
事業区分	水辺整備
主な整備内容	昇降階段、昇降施設、階段工
事業費	7.1億円
事業期間	平成22～38年度
整備完了年	平成24年度

【工程表】

主な工程	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
昇降階段		■															
昇降施設		■															
階段工			■														

【整備内容】



【整備イメージ】



2. 事業の必要性等 [川内川総合水系環境整備事業の概要]

②薩摩川内市街部地区

- ◆ 薩摩川内市街部地区は、薩摩川内市の市街部に位置し、近隣は住宅街となっている。高水敷では、鯉のぼりフェスティバルや木市、薩摩川内リバーフロントマルシェ等のイベントの場所として利用されている。
- ◆ 高水敷の整正、散策路や階段・坂路等の整備を行い、利用の際の安全性を高めることにより、高水敷ではスポーツやイベント等で多くの人々で賑わい、日常では川内川沿いを散策する人々による利用が期待される。

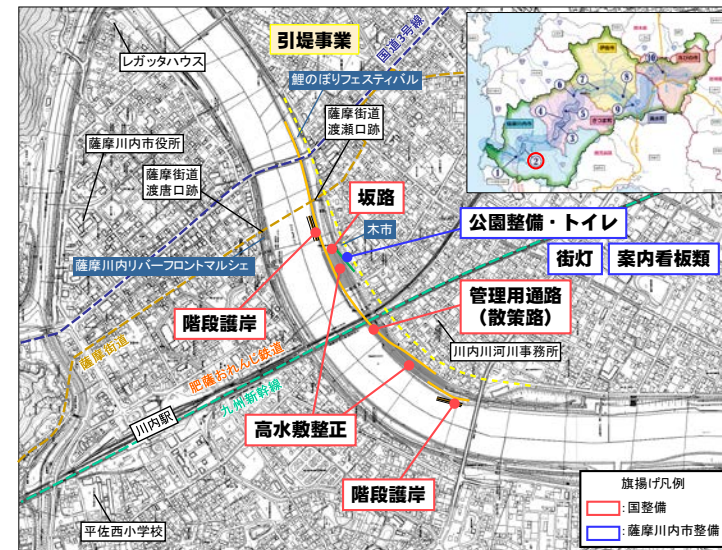
【概要】

位置	川内川11k000～13k000付近
事業区分	水辺整備
主な整備内容	高水敷整正、坂路、階段護岸工、管理用通路
事業費	5.3億円
事業期間	平成22～38年度
整備完了年	平成30年度

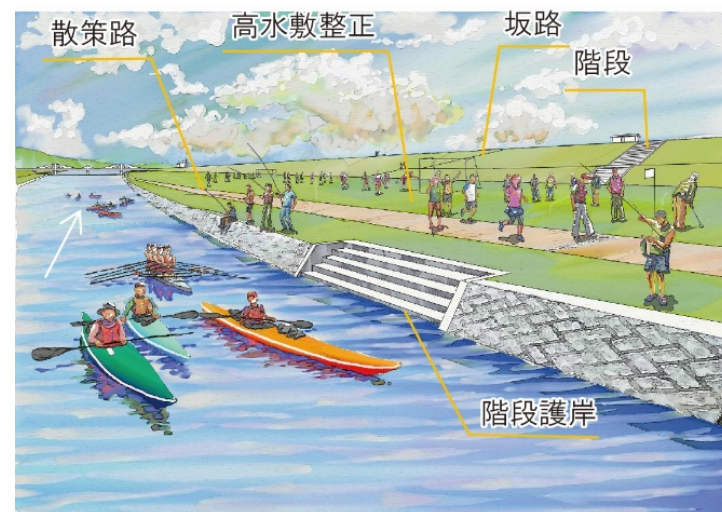
【工程表】

主な工種	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
高水敷整正									■								
坂路								■									
階段護岸								■									
管理用通路									■								
モニタリング調査										■	■	■	■	■	■		

【整備内容】



【整備イメージ】



2. 事業の必要性等 [川内川総合水系環境整備事業の概要]

③宮之城屋地・虎居地区

- ◆ 宮之城屋地・虎居地区は、さつま町中心部に位置しており、新春泳ぎ初め、川遊び、さかなのつかみ取りなどの場所として利用されている。
- ◆ 水辺に近づきやすい坂路や散策路、階段護岸の整備や高水敷整正等を行い、アクセス性と利用の際の安全性を高めることにより、イベント時から日常において、人々が安全に利用できて集い賑わう水辺空間が形成され、川内川の活用による交流人口の増加が図られることが期待される。

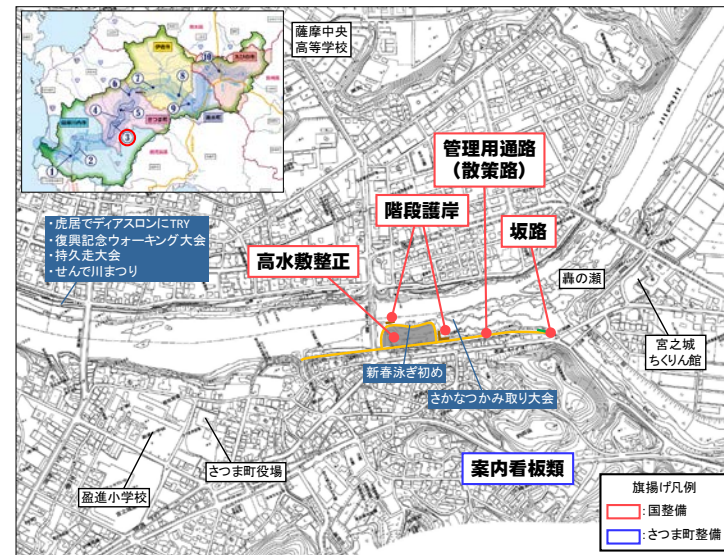
【概要】

位置	川内川37k800～38k200付近
事業区分	水辺整備
主な整備内容	高水敷整正、管理用通路、坂路工、階段護岸工
事業費	2.3億円
事業期間	平成22～38年度
整備完了年	平成31年度

【工程表】

主な工種	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H32	H34	H35	H36	H37	H38
高水敷整正										■							
管理用通路										■							
坂路								■									
階段護岸							■	■									
モニタリング調査											■	■	■	■			

【整備内容】



【整備イメージ】



2. 事業の必要性等 [川内川総合水系環境整備事業の概要]

④ さつま町（ホタル）地区

- ◆ さつま町は、毎月5月頃には町内のあちこちで多くのホタルの光を観ることができ、川内川の川岸に乱舞するホタルを川舟から観賞する「ホタル舟」が運航されており、県内外から多くの人々が観光に訪れ、さつま町の観光資源の一つとなっている。
- ◆ 水辺に近づきやすい散策路、階段護岸（舟着場）等を整備し、利用の際の安全性を高めることにより、ホタル観賞等の利便性が向上し、川内川を基軸としたまちの観光振興が図られることが期待される。

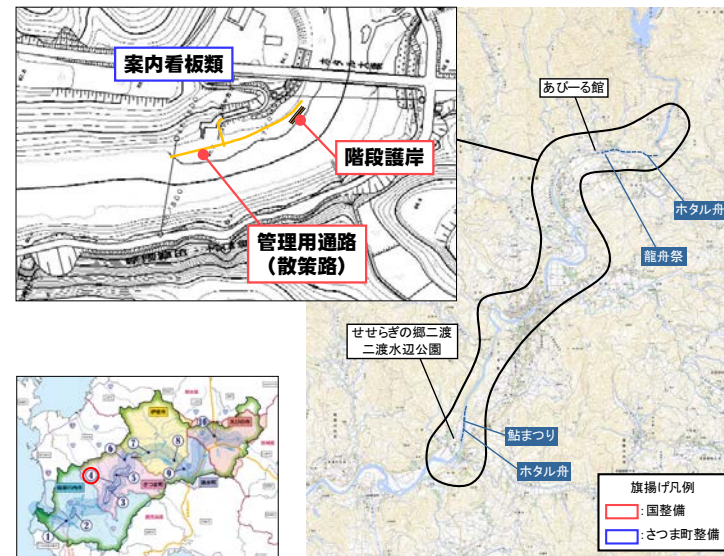
【概要】

位置	川内川31k800(山崎大橋)付近～47k000(ホタル大橋)付近
事業区分	水辺整備
主な整備内容	管理用通路、階段護岸工
事業費	0.6億円
事業期間	平成22～38年度
整備完了年	平成31年度

【工程表】

主な工種	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
管理用通路									■								
階段護岸										■							
モニタリング調査											■	■	■	■	■		

【整備内容】



【整備イメージ】



2. 事業の必要性等 [川内川総合水系環境整備事業の概要]

⑤ さつま町湯田地区

- ◆ さつま町湯田地区は、江戸時代後期からの歴史を持つ宮之城温泉が軒を連ねている。川内川の河川敷からは、その源泉が湧き出し、足湯としての利用が要望されている。
- ◆ 水辺に近づきやすい階段、河原の整正及び散策路等を整備し、アクセス性と利用の際の安全性を高めることにより、温泉街と一体となった賑わいのある水辺空間が形成され、地域の資源を利用した観光メニューの一つとして観光振興が図られることが期待される。

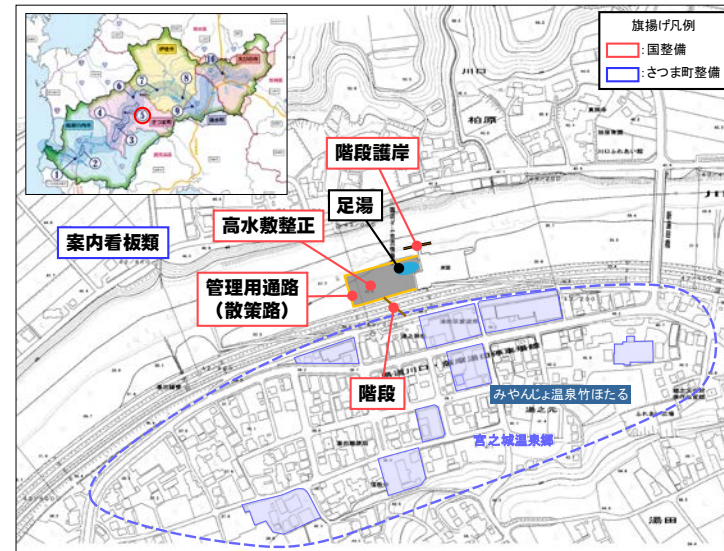
【概要】

位置	川内川43k000付近
事業区分	水辺整備
主な整備内容	高水敷整正、管理用通路、階段工、階段護岸工
事業費	1.6億円
事業期間	平成22～38年度
整備完了年	平成33年度

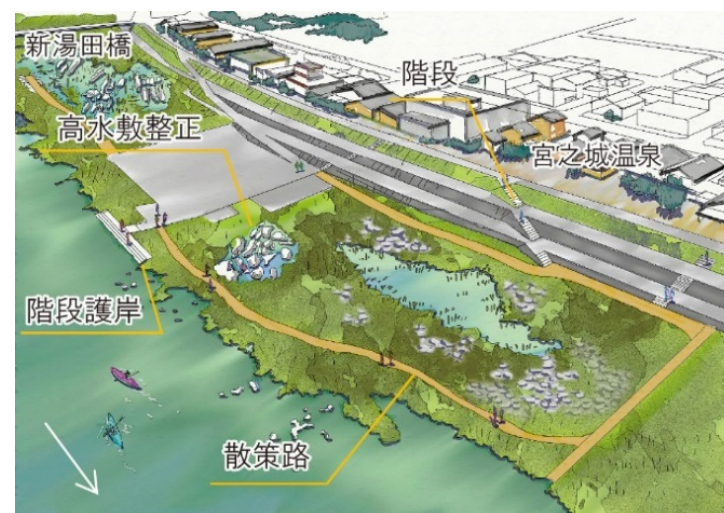
【工程表】

主な工種	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
高水敷整正											■						
管理用通路											■						
階段												■					
階段護岸												■					
モニタリング調査													■	■	■	■	■

【整備内容】



【整備イメージ】



2. 事業の必要性等 [川内川総合水系環境整備事業の概要]

⑥鶴田ダム湖周辺地区

- ◆ 鶴田ダム及び大鶴湖の水位が下がる夏の時期にレンガ造りの美しい姿をみせる鶴田ダム湖面上流にある曾木発電所遺構は、観光資源となっている。
- ◆ 遺構に近づきやすい坂路、湖面からアクセスが可能となる階段（船着場）、散策路等を整備し、利用の際の安全性を高めることにより、ダム湖及び曾木の滝公園との船による回遊など、さつま町の「地域の豊富な資源を組み合わせた観光メニューづくり」と伊佐市の「地域資源を活用したツーリズム」に資する魅力あるダム空間の形成が図られることが期待される。

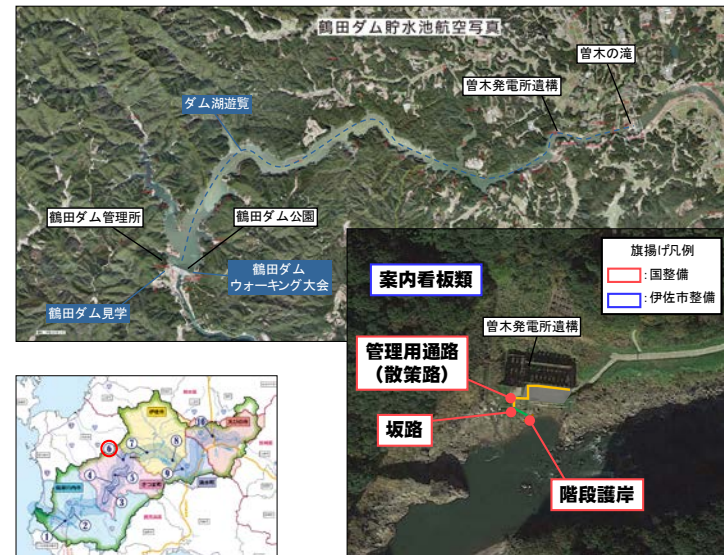
【概要】

位置	鶴田ダム湖周辺
事業区分	水辺整備
主な整備内容	管理用通路、坂路工、階段護岸工
事業費	1.5億円
事業期間	平成22～38年度
整備完了年	平成33年度

【工程表】

主な工種	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28	H 29	H 30	H 31	H 32	H 33	H 34	H 35	H 36	H 37	H 38
管理用通路												■					
坂路											■						
階段護岸												■					
モニタリング調査													■	■	■	■	■

【整備内容】



【整備イメージ】



2. 事業の必要性等 [川内川総合水系環境整備事業の概要]

⑦ 曾木の滝周辺地区

- ◆ 東洋のナイアガラと呼ばれている曾木の滝の周辺は、一帯が自然公園となっており、曾木の滝の雄大な景色と、桜や紅葉などの四季の彩りを楽しむために、多くの観光客が訪れる。紅葉の季節にはもみじ祭りなどが開催されるなど、曾木の滝公園はイベント広場としても利用されている。
- ◆ 周辺の公園施設と一体となって、水辺に近づきやすい坂路や階段護岸(船着場)等を整備し、アクセス性と利用の際の安全性を高めることにより、曾木の滝を基軸とした観光振興・地域の活性化が図られることが期待される。

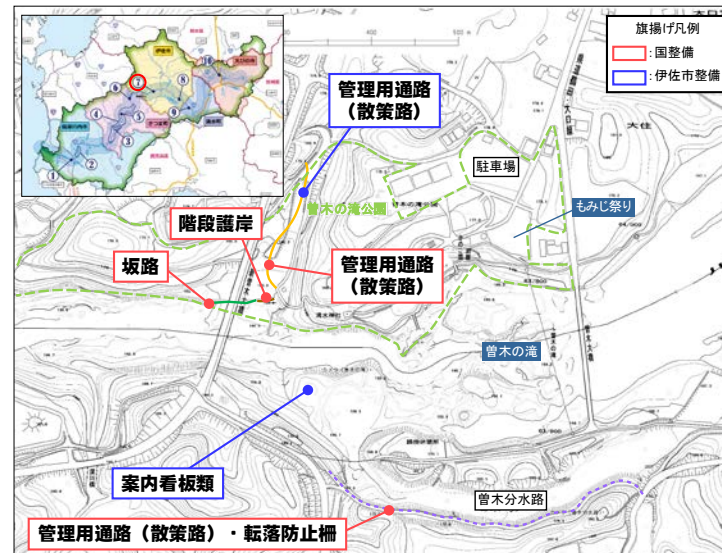
【概要】

位置	曾木の滝周辺
事業区分	水辺整備
主な整備内容	坂路工、階段護岸工、管理用通路、転落防止柵
事業費	2.0億円
事業期間	平成22～38年度
整備完了年	平成31年度

【工程表】

主な工種	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
坂路										■							
階段護岸										■							
管理用通路										■							
転落防止柵									■								
モニタリング調査											■	■	■	■	■		

【整備内容】



【整備イメージ】



2. 事業の必要性等 [川内川総合水系環境整備事業の概要]

⑧湯之尾地区

- 湯之尾地区は、カヌーにおける九州国体や県民大会、いさドラゴンカップ、パークゴルフなど、年間を通じて多くの市民に利用されている箇所である。また、平成32年の鹿児島国体のカヌースプリント会場に決まっており、カヌーを活用した地域振興が期待される。
- 安全な河川利用、カヌー競技を行うための階段護岸や散策路等を整備し、利用の際の安全性を高めることにより、カヌーによる地域振興等が図られることが期待される。

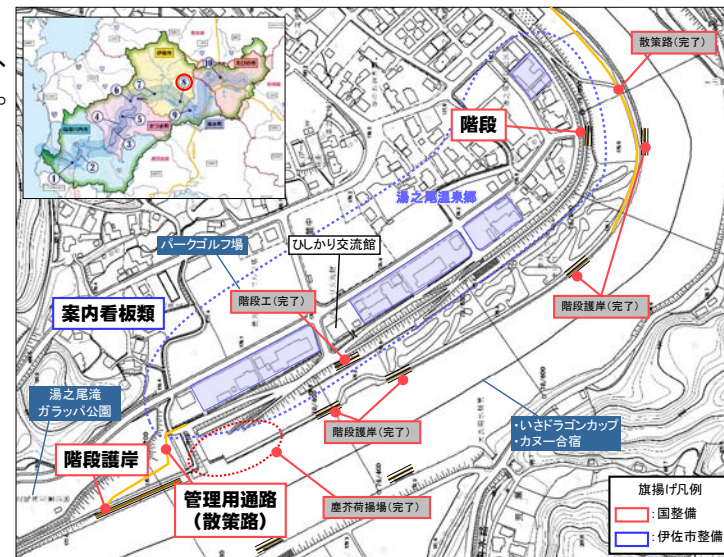
【概要】

位置	川内川78k000～79k000付近
事業区分	水辺整備
主な整備内容	塵芥荷揚場、階段工(高水部・低水部)、階段護岸工、管理用通路
事業費	2.5億円
事業期間	平成22～38年度
整備完了年	平成29年度

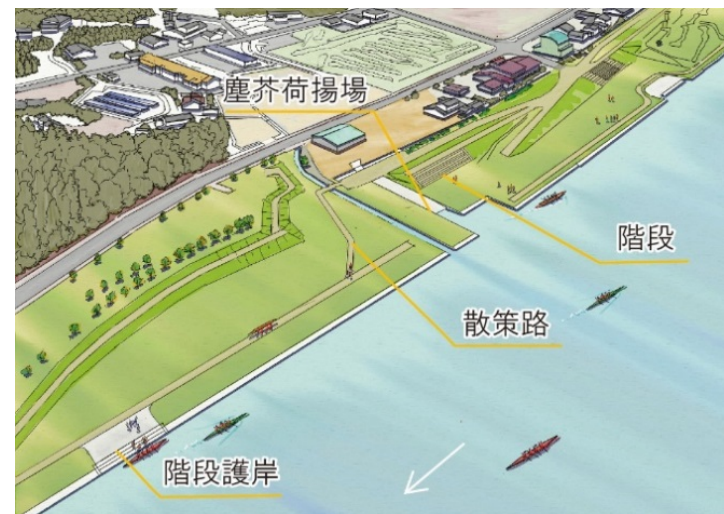
【工程表】

主な工種	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
塵芥荷揚場		■															
階段護岸								■	■	■	■						
階段		■						■	■	■	■						
管理用通路			■					■	■	■	■						
モニタリング調査									■	■	■	■	■	■	■		

【整備内容】



【整備イメージ】



2. 事業の必要性等 [川内川総合水系環境整備事業の概要]

⑨轟地区

- ◆ 湧水町轟地区は、カヌースラローム大会やイルミネーションが開催されるなど、多くの人々の河川の利用がある。
また、当地区は平成32年のかごしま国体のカヌースラローム・ワイルドウォーター会場に決定しており、カヌースラローム・ワイルドウォーターを活用した地域振興が期待される。
- ◆ 安全な河川利用、カヌー競技を行うための階段護岸や散策路等を整備し、利用の際の安全性を高めることにより、カヌーによる地域振興等が図られることが期待される。

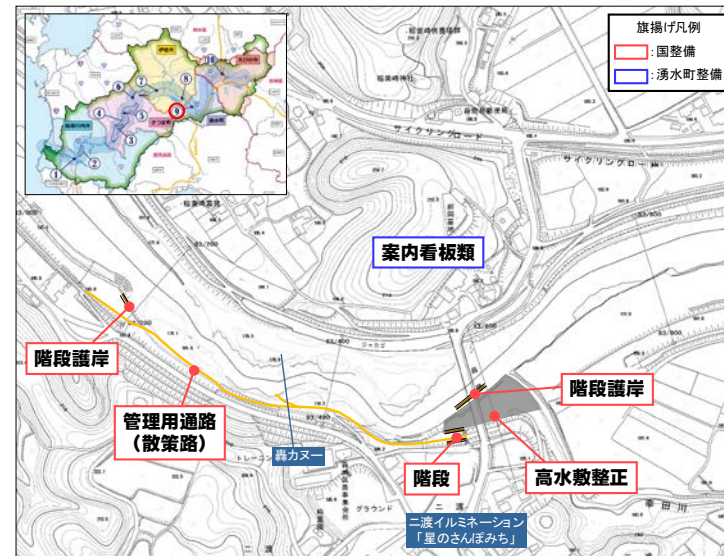
【概要】

位置	川内川83k200～83k600付近
事業区分	水辺整備
主な整備内容	高水敷整正、管理用通路、階段工、階段護岸工
事業費	2.5億円
事業期間	平成22～38年度
整備完了年	平成30年度

【工程表】

主な工種	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28	H 29	H 30	H 31	H 32	H 33	H 34	H 35	H 36	H 37	H 38
階段																	
階段護岸																	
管理用通路																	
高水敷整正																	
モニタリング調査																	

【整備内容】



【整備イメージ】



2. 事業の必要性等 [川内川総合水系環境整備事業の概要]

⑩湯田地区

- ◆ 湯田地区は、隣接するグリーンパークえびのにおいてキッズサッカー大会、秋季えびの観光祭等のイベントが開催されている。また、消防出初式や5月に開催されているえびの京町温泉マラソン大会のスタート・ゴール地点にもなっており、多くの来訪者や地域住民に利用されている。
- ◆ 水辺に近づきやすい階段護岸、散策路や広場等を整備し、利用の際の安全性を高めることにより、周辺観光拠点等の地域資源を活かした、観光・交流拠点として、賑わいのある水辺空間の形成が図られることが期待される。

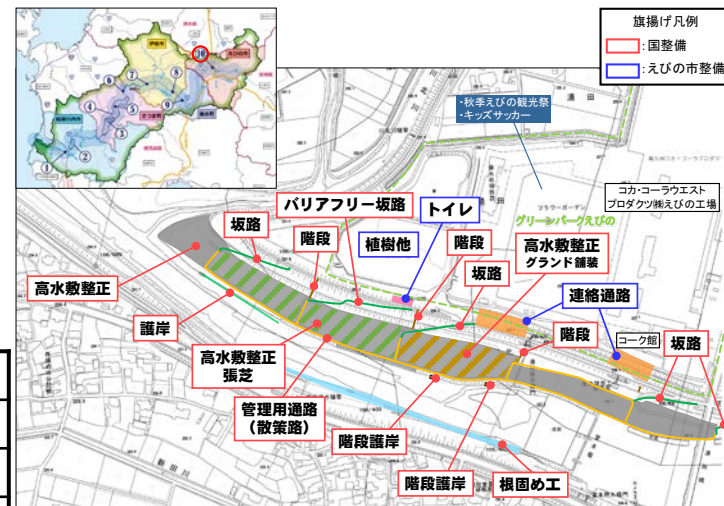
【概要】

位置	川内川106k000～107k000付近
事業区分	水辺整備
主な整備内容	高水敷整正、管理用通路、坂路工、階段工、階段護岸工、護岸工、根固め工
事業費	4.6億円
事業期間	平成22～38年度
整備完了年	平成29年度

【工程表】

主な工程	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
高水敷整正																	
管理用通路																	
坂路																	
階段																	
階段護岸																	
護岸																	
根固め工																	
モニタリング調査																	

【整備内容】



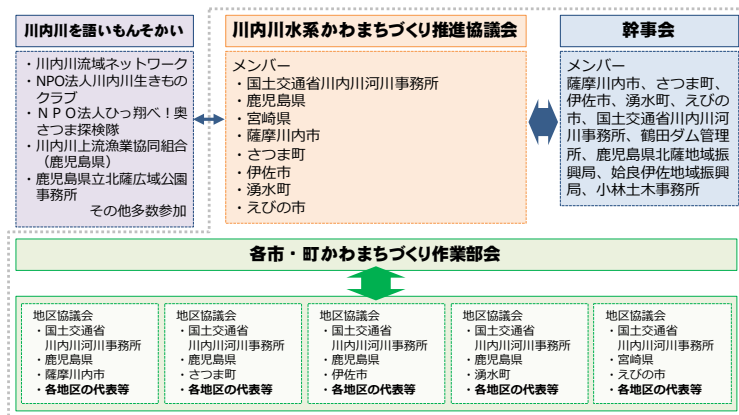
【整備イメージ】



2. 事業の必要性等 [川内川総合水系環境整備事業の概要]

(3) 事業の推進体制

- ◆かわまちづくりの推進体制として、「川内川水系かわまちづくり推進協議会」を設置し、その下に、各関係機関で組織された幹事会、具体的な内容について協議を行う地区住民代表も参加する地区協議会、作業部会で組織する。
- ◆川内川で活動する「川内川を語いもんそかい」は、オブザーバー的役割を担う。地域の意向を計画に反映するため、協議会・作業部会を中心として、地域と一体となった体制で推進する。



かわまちづくり推進体制

各地区かわまちづくり推進協議会等開催状況(抜粋)

開催期間	会合名
H21.9.18~H25.3.21【13回】	向田地区かわまちづくり推進協議会・作業部会
H21.9.4~H25.3.19【13回】	湯之尾地区かわまちづくり推進協議会・作業部会
H24.10.19~【9回】	えびのかわまちづくり推進協議会・作業部会
H25.12.19~【10回】	宮之城屋地・虎居地区かわまちづくり推進協議会・作業部会

川内川水系かわまちづくり推進協議会等開催状況

開催日	会合名
H27.12.18	川内川水系かわまちづくり計画 準備会
H28.3.18	第1回川内川水系かわまちづくり推進協議会(川内川首長懇談会)
H28.8.3	川内川流域自治体課長会議
H28.8.19	第2回川内川水系かわまちづくり推進協議会

○協議会開催状況



向田地区



湯之尾地区



えびの湯田地区



宮之城
屋地・虎居地区



第1回川内川かわまちづくり
推進協議会



第2回川内川かわまちづくり
推進協議会

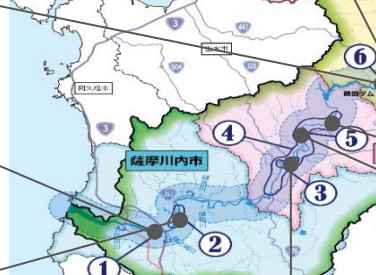
3. 前回評価時からの変化

- 川内川3市2町でつくる「川内川水系かわまちづくり推進協議会」を通して地域住民、自治体と具体的な整備内容等に関する意見交換を行っている。
- その結果、これまでの個別整備箇所を含め、関係市町が連携して個々の流域の魅力を発信し、地域活性化を図ることを目的として、以下に示す10箇所で開催を推進していく方針としている。
- その結果、全事業費が当初の8.8億円から、約30.1億円に変更となっている。

【川内川水系における水辺整備箇所】

☐ : 前回と同じ整備箇所

☑ : 今回新たな整備箇所



3. 前回評価時からの変化

全体整備スケジュール

整備地区	整備スケジュール																
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
向田地区		■	■														
薩摩川内市街部地区								■	■	■	■	■	■	■			
宮之城屋地・虎居地区								■	■	■	■	■	■	■	■		
さつま町(ホテル)地区									■	■	■	■	■	■	■		
さつま町(湯田)地区											■	■	■	■	■	■	■
鶴田ダム湖周辺地区											■	■	■	■	■	■	■
曾木の滝周辺地区									■	■	■	■	■	■	■		
湯之尾地区		■	■					■	■	■	■	■	■				
轟地区								■	■	■	■	■	■	■			
湯田地区					■	■	■	■	■	■	■	■	■				

■ 前回 (H25) 評価時 ■ 前回からの変更

インターハイ
国体

3. 前回評価時からの変化

項目	前回評価時 (平成25年度)	今回評価時 (平成28年度)	変更理由
総事業費	約8.8億円 向田地区：約3.6億円 湯之尾地区：約1.5億円 湯田地区：約3.7億円	約30.1億円 水系全体：全10地区	水系一体での計画策定、整備地区の追加に伴う変更
事業完了年	平成34年度	平成38年度	
B/C	1.8	2.3	
B (便益)	16.5億円	79.0億円	
C (費用)	9.1億円	34.4億円	

※B/Cの算出は、便益を費用で除算することにより算出する。便益はアンケート調査によって求めた年支払い意思額と便益が及ぶ世帯数を積算し、これを社会的割引率を考慮し完成後50年分を足し合わせるにより算出する。費用は社会的割引率等を考慮した事業費と完成後50年分の維持管理費を足し合わせるにより算出する。

4. 事業の投資効果〔費用対効果等〕

＜費用対効果等＞

	事業費	主な整備内容	便益(B)	費用(C)	B/C
全事業	30.1億円		79.0億円	34.4億円	2.3
残事業					
水辺整備					
川内川水系	30.1億円				
向田地区	7.1億円	昇降階段、昇降施設、階段工 等			
薩摩川内市街部地区	5.3億円	高水敷整正、坂路、階段護岸工、管理用通路 等			
宮之城屋地・虎居地区	2.3億円	高水敷整正、管理用通路、坂路工、階段護岸工 等			
さつま町(ホテル)地区	0.6億円	管理用通路、階段護岸工 等			
さつま町湯田地区	1.6億円	高水敷整正、管理用通路、階段工、階段護岸工 等			
鶴田ダム湖周辺地区	1.5億円	管理用通路、坂路工、階段護岸工 等			
曾木の滝周辺地区	2.0億円	坂路工、階段護岸工、管理用通路、転落防止柵 等			
湯之尾地区	2.5億円	塵芥荷揚場、階段工、階段護岸工、管理用通路 等			
轟地区	2.5億円	高水敷整正、管理用通路、階段工、階段護岸工 等			
湯田地区	4.6億円	高水敷整正、管理用通路、坂路工、階段工、階段護岸工、護岸工、根固め工 等			

	アンケート実施時期	アンケート配布数	有効回答数	集計範囲	集計世帯数	支払い意思額(円/月・世帯)
川内川水系	平成27年度	3,500	459	薩摩川内市、さつま町、伊佐市、湧水町、えびの市	78,816	409

5. 事業の進捗の見込み・コスト縮減や事業手法、施設規模等の見直しの可能性

(1) 今後の事業展開

- ◆川内川水系では、平成22年度に「かわまちづくり」に係る環境整備事業に着手しており、引き続き地元自治体や地域住民等と協力して事業を進め、平成33年度までに当面整備予定の10地区の整備を完了させる予定である。各地区、整備完了後は、モニタリング調査等を実施し、平成38年度に完了予定である。

(2) 今後の事業の進捗の見込み

- ◆平成28年3月に設置された、関係5市町の首長及び鹿児島県、宮崎県から構成される「川内川水系かわまちづくり推進協議会」や、その実践組織となる「幹事会」及び「地区協議会」を継続的に開催し、整備や利活用、維持管理等について、活発な議論を行っており、地域の協力体制により、今後も順調な事業進捗が見込まれる。

(3) 事業手法、施設規模等の見直しの可能性

- ◆各地区の詳細な整備内容については、具体的な計画段階において地区協議会等を開催して議論を重ね、河川管理面、河川利活用面等を考慮した上での適切な整備内容となっており、現計画が最適と考えている。

(4) コスト縮減の方策

- ◆近年の技術開発の進展に伴う新工法等の採用による新たなコスト縮減の可能性等を探りながら、事業を進めていく方針である。

6. 対応方針（原案）

- ◆ 川内川水系では、これまで各所で行政、地域、企業と連携した水辺整備を実施してきたが、さらに水系全体で一体的に推進するため、「かわ」と「まち」のつながりを強化・再構築することに効果的な地区において、川内川を基軸とした地域連携、地域活性化につながる安全に安心して利用できる水辺空間の整備を強く要望されている。このため、管理用通路、高水敷整正、護岸工等の整備を行うものである。
- ◆ 平成28年3月に設置された、関係5市町の首長から構成される「川内川水系かわまちづくり推進協議会」や、その実践組織となる「幹事会」及び「地区協議会」を継続的に開催し、整備や利活用、維持管理等について、活発な議論を行っており、地域の協力体制が整っている。
- ◆ 費用対効果について十分高い事業である。

以上より、引き続き事業を継続することとしたい。